

## 第3回学習会（久田・申報告）の概要メモ 10/26 実施

### 1. 学習会の流れ

#### 学習会の流れ

開会	5分
話題提供(久田徳二さん)	40分
話題提供(申夏林さん)	40分
語り合い①(4G)	30分
※講師のメッセージを受けて	
※代表質問を2点選出(久田さん1点、申さん1点)	
語り合い②(4G)	30分
※グループ代表質問(6つ)と講師の返答	
大判PIの構造化	3分
コメンテーター(李ビョンオ先生)のコメント	15分
統括(PJ代表)	5分

### 2. 報告の概要（配布資料まとめより）

#### 1) 久田報告

- ・ 原発事故直後の報道
  - ・ 避難はどこへ、どこまで。
  - ・ 緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム (System for Prediction of Environmental Emergency Dose Information, SPEEDI)
  - ・ 真実は現場にある
  - ・ 「最も信頼できる情報源」
- ・ 海洋汚染と生態系
  - ・ 汚染水の海洋放出
  - ・ 魚と鳥の奇形
  - ・ 植物連鎖による濃縮
  - ・ 放射能の実態と予測についての研究必要性
  - ・ 海洋汚染の予測図
- ・ 食品輸入規制でWTO提訴
  - ・ 提訴の根拠と是非
  - ・ 輸入禁止は韓国だけでない
  - ・ なぜ韓国だけ提訴するのか

## 2) 申報告

- ・リスク報道における新聞の重要性及び特徴
  - ・記録性及び保管性が高い
  - ・公務員は新聞を政策の判断資料として活用している
  - ・TV放送局の記者は新聞の愛読者であることから、新聞はTV放送の報道にも重要な役割を果たしている
  - ・しかし、新聞には原稿の締め切り時間及び紙面制約があり、自社の「伝統的な方式」を重視する傾向が強く、保守性が高いといわれている
  - ・新聞の製作においては、一定のパターンがあるが、それを変えられるのは読者のみである
- ・口蹄疫におけるリスク報道の量的特徴とフレームの分析
  - ・韓国新聞の口蹄疫報道は中央災難安全対策本部の稼働時期に集中されている
  - ・口蹄疫のニュース情報源は行政機関への依存度が高い
  - ・危害の伝達を単なる事件報道の観点でとらえることより、詳細な報道・分析記事が必要であり、危害の科学的実態についての報道も必要である
- ・マーズのリスク報道のネットワーク分析
  - ・朝鮮日報は感染の始発点である「サムスンソウル病院」を批判する記事が多い
  - ・ハンギョレは「市民 - 情報 - 公開」が一つのクラスターを形成しており、政府に対する情報公開及び透明な対応を促す記事があった
  - ・新聞記者は感染症に対する報道準則を履行するのが最も重要である
- ・日本の原発事故に対する韓国新聞の報道態度
  - ・韓国のマスコミは初期から「放射能のリスク」に重点を置いて報道している
  - ・日本政府の対応を批判する記事も多数報道されていた

## 3. コメンテータによるコメント

- ・リスクコミュニケーションは食品安全に関わる情報を迅速かつ透明に、受信者が理解しやすいかたちで伝達することによって、食品に起因するリスクを軽減させることである
- ・リスクコミュニケーションにおいて、情報の発信及び管理を担当するのは食品の生産者、加工業者、流通業者、公務員であり、情報受信者は消費者、一般市民である。さらに、メディア（新聞、TV）、インターネット、SNSは情報伝達を担当しており、その役割はより重要となっている
- ・メディアは刺激的なキーワードとインパクトの大きいヘッドラインをとることが主な特徴である
- ・メディアと消費者の間に、食品リスクについて正しい情報交換ができるように、関連機関にリスクコミュニケーションの専門家を配置するなどの取り組みが必要で

ある

- メディアの間違った報道により、食品メーカーに大きな被害を与えた場合、適切な法律的・政策的措置が必要である
- 消費者も自ら食品安全に関する知識と情報を中立的な立場で受け取り、正しく判断する能力を高める必要がある

#### 4. 質疑・応答の構造化結果

